

学校教育目標	【学校教育目標】共に創り 共に歩み 共に輝く ○基礎・基本を大切に、自ら課題を解決しながら、共に学び合う力を育てます。【知】 ○他者との豊かな関わり合いの中で、互いのよさや違いを認め合い、共に高め合える姿勢を育てます。【徳】 ○健康や安全の大切さに気づき、自分や他者の生命を尊ぶことのできる、心も体も健やかな子どもを育てます。【体】 ○地域の人々や自然とのかかわりを通して生き方を学び、自らできることを考えて実践できる力を育てます。【公】 ○私たちの「まち」綱島を愛し、綱島の自然や文化の素晴らしさを受け継ごうとする態度を育てます。【開】			
	創立 74 周年	学校長 金森 孝子	副校長 魚住 千尋	2 学期制 一般学級：21 個別支援学級：3
学校概要	児童生徒数： 657 人 主な関係校： 新田中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	新田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
【綱島小学校】 感謝の気持ちを持ち、自他を思いやり認め 合う子 — 聴く力、伝える力 —  【新田中ブロック】 自分づくりに関する力	新田中学校 新田小学校 新吉田小学校 新吉田第二小 学校	「人との関わり」や「自他の思いや願い」を大切にできる子  ・「自分づくりに関する力」をブロック全体で育てたい資質・能力として設定し、各教科 領域において、資質・能力を意識した授業を展開する。(ブロック小中一貫合同授業 研を年2回実施。) ・児童生徒交流日に、6年生が中学校の合唱練習に参加し、交流する。 ・授業部活動見学(6年)を通して、中学校生活への意識を高める。

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども一人ひとりが思いや考えを持ち、共に学び合いながら、主体的・対話的に学びが深まるような教育活動を推進します。</li> <li>・1年目は、子どもたち全員が考えを持ち、互いに学び合おうとする姿を目指します。</li> <li>・2年目は、子どもの表現を大切にしながら共に学び合い、子どもたち全員の学び合う力が高まるように育てます。</li> <li>・3年目は、共に学び合うことで、互いに考えを深め合えることができるようになります。</li> </ul> <p>○綱島のまちの「人」「もの」「場所」を生かし、「感謝」「思いやり」「認め合い」「聴く、伝える」といった身につけたい力を明確にしながら、綱島を愛する心を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感を持ち、楽しく学校生活が送れるようにします。</li> <li>・「感謝」「思いやり」「認め合い」「聴く、伝える」という資質・能力育成をめざした授業改善、学級経営、学年経営に取り組みます。</li> <li>・学校行事を充実することで、綱島小の一員である意識を高め、「チーム綱島」として力を発揮できるようにします。</li> <li>・通級指導教室、一般学級・個別支援学級担との連携、情報交換、研修等を通じ、チーム力向上を図ります。</li> </ul>
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	①授業を通して身に付けさせたい資質・能力を見据え、新しい学びや気付きを得られるようにする。 ②どの教科等でも自分や友達の考えに基づいた言語活動を充実させ、児童が主体となって授業に取り組めるよ うな授業展開や手立てを推進する。
担当 研究推進委員会	
徳 豊かな心	①委員会活動や係活動などの特別活動や異学年での関わりを充実させ、自他を大切に思いやりの心情を育 てながら自己有用感を高める。②様々な学習活動や行事、集会活動の中で、互いのよさを認め合う機会を意 図的に設ける。
担当 人権・児童指導委員会	
体 健やかな体	①体育学習を中心として、自分の身体を意識してよりよい心と体を育もうとする意欲を育てる。②学校保健委員会 等の学校保健活動では、学校医等と連携し、児童の健康面での課題を取り上げ、実践的な活動をすすめていく。 ③危険を予測し回避できる安全教育・防災教育を充実する。
担当 健康安全委員会	
公 自分づくり・地域 連携	①綱島の「人」「もの」「場所」の材を生かし、「まち」に生きる一員としての自覚を高めるために、本校ならではの学習の充実と展開を 図る。②地域との繋がりを実感し関わる中で、感謝の気持ちを持ち、伝えることができる場を設ける。③自分づくりパスポートを活用 し、自らの変容や成長を自覚し、自己有用感を高められるようにする。
担当 評価・カリマネ委員会	
いじめへの対応	①教科指導や特別活動を通して、温かな学級風土づくりをしたり、児童の豊かな心を育成したりして、いじめの未 然防止に努める。②年2回のYPアセスメントやいじめアンケート、教育相談を行い、いじめの早期発見をし、児童 支援専任を中心として全教職員で情報を共有し、いじめに対して組織的に対応する。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①学年での教科分担制を実施し、職員が連携し合うことにより、チーム力を高める組織づくりを行う。②5年次以 下の職員を中心にメンターチームを組織し、研究授業や研修を通して授業力の向上を図る。③ICTを活用した事 務の効率化や情報の共有化を図る。
担当 教務部・メンター	
特別支援教育	①個別の教育支援計画・指導計画に則り、児童一人ひとりに合った教育環境となるように、PDCAサイクルを意識して取り組む。② 児童が落ち着いて取り組めるユニバーサルデザインを意識した授業や環境づくりを目指す。③通級職員と意見交換する場を積極的 に設け、連携を深め、個に応じた教育活動を実践していく。④少人数指導を充実させる。
担当 特別支援委員会	
児童・生徒指導	①担任、学年の教員や専科教員など多くの職員で児童と関わり、情報共有して児童理解に努める。②綱島スタン ダードを全職員で共通理解し、同じ方向性で指導を行うことで、児童一人ひとりが安心・安全に生活できる環境を 整える。
担当 児童指導委員会	
教育課程 学習指導	①学年を核として、「協働的な学び」「個別最適な学び」を構築する授業改善に取り組む。②カリキュラム全体を系統的な視点で捉 え、PDCAサイクルを機能させた学校全体の実践を積み重ねる中で、指導と評価を一体化させたカリキュラム・マネジメントを推進す る。③情報活用能力の育成、情報モラルの理解、情報の信頼性の検討、複数の情報から課題解決する学びの構築など、時代の ニーズや変化に合ったICT教育を進める。
担当 評価・カリマネ委員会	
通級指導教室	①一人ひとりに応じた支援ができるよう研修会を設定し、個別の指導計画の適正な活用や合理的配慮の充実が図れるよう情報を発信 していく。②通級担当者としてスキルアップ研修を行い、特別支援教育の充実を図る。③協働型巡回指導により通級担当教員の 児童への指導・支援や担任等への助言、個別の指導計画の共有を通して、教員の専門性の向上や校内支援体制の充実を図る。
担当 通級連絡委員会	